

学位論文審査の要旨

学位申請者	坂本(橋本) 佳鶴恵 東京大学大学院 社会学研究科博士課程 1987年9月退学		論文題目	女性雑誌とファッションの歴史社会学 —ビジュアル・ファッション誌の成立
審査委員	主 査:	平岡 公一 教授	インター ネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	棚橋 訓 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	小玉 亮子 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	西村 純子 准教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	大橋 史恵 准教授		<input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博 士 (社会科学)			<input type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Sociology)			<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
学力の確認	学力確認のための試問は、経歴及び業績の審査をもって代える。			※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本論文は、明治期から1990年代までの女性雑誌の歴史的変化とファッションとの関係について、特に1970年代におけるビジュアル・ファッション誌の登場に注目しつつ、歴史社会的視点から多角的に検討を行ったものである。研究の方法としては、雑誌の口絵等のビジュアル紙面、衣服・ファッション記事の内容分析、誌面分析を中心に、雑誌の判型・表紙の変化や、読者の投稿や手紙の分析、読者世論調査の結果の検討、編集者のインタビュー等の多様な方法が併用され、多岐にわたる知見が示されている。そのなかでも、1970年代以降のビジュアル・ファッション誌の登場が自己表現としてのファッションという考え方を広める上で重要な役割を果たしたこと、またこれらの雑誌が、ファッションやライフスタイルを自分のために楽しむ消費としてとらえる認識枠組みや態度を女性たちにもたらしたことなどの点が、主要な知見であった。

2020年2月6日に開催された第一回審査委員会では、本論文について、次の3点が高く評価された。第一に、本論文は、明治期から20世紀末にいたる長い期間の日本社会の歴史的変化のなかに、女性雑誌とファッションの関係を位置づけて、体系的な実証研究を行ったものとしては最初のものであり、近現代日本の社会史から浮かびあがるジェンダー関係を幅広くとらえる内容ともなっている。第二に、本論文は、膨大な点数の女性雑誌の記事や口絵等を内容分析の方法によって量的にとらえるとともに、記事内容を丹念に読み解くという作業の積み重ねの上に成り立っており、さらに読者の投稿や手紙、自身や新聞社が行った調査の結果や編集者のインタビュー等の多様な資料が有効に活用されている。第三に、本論文では、女性雑誌のファッション記事が、女性のライフスタイルに与えてきた多面的な影響が歴史的に解明されており、特に、ビジュアル・ファッション誌という形をとるようになった女性雑誌が、日本女性の「主体化」をエンパワーしてきたという独自の主張が、説得力をもって展開されている。

以上のことから、審査委員の意見は、本論文が最終試験の対象とするのに十分な水準に達しているという点で一致し、2月17日に公開発表会を開催することが了承された。

公開発表会は、学内外の社会学および関連分野の研究者・大学院生が参加して行われ、学位申請者が論文の概要を説明した後で、質疑応答が行われた。学位申請者による質問への回答と追加説明は、適切なものであった。

続いて開催された最終試験においては、本論文が、博士(社会科学、Ph. D. in Sociology)の学位を授与するにふさわしいものであるという点で審査委員全員の意見が一致し、試験結果を合格とした。